

# JAL 争議を支援する かながわ連絡会結成!



## 支える会通信

発行責任者  
柚木康子  
大田区羽田  
4-10-4  
石井ビル3階  
TEL03 (6423) 7878  
FAX03 (6423) 7430  
メール  
sasaerukai@  
lemon.plala.  
or.jp

8月27日、横浜波止場会館で「JAL争議を支援するかながわ連絡会」が結成されました。

全国で33番目の支援団体となり、「労働者の使い捨て解雇自由を許す」ことなく、労働者が安心して働ける社会実現に向けて、JAL争議は負けられない」と、所属センターの枠組みを超えて神奈川県下の労組・団体に組織されました。

参加者は183名で会場には立ち見までも盛況ぶり。開演に先立ち、争議が始まった当初からJAL争議に尽力していただいた支える会事務局次長の原田洋一さん(前日75歳でご逝去)に黙とうが捧げられました。(追悼文を参照ください)  
議案については、神奈川労連住谷議長が一括して提案。

運動方針では、年内解決

を目標にして、東京オリピックのオフィシャルパートナーであるJALに社会的責任を果たすよう求めること、4次にわたるILO勧告の誠実な履行を求めること、安全優先の取り組みを進めること等が提起され、満場一致で確認されました。また共同代表には全国税制懇談会の浅井裕子税理士、労働弁護団の岡田尚弁護士、神奈川県共闘の川端議長、神奈川労連の住谷議長、全造船関東地協の早川書記長の5氏を選出しました。

## 10・9全国代表者会議報告

JAL国民支援共闘主催によるJAL争議の早期解決をめざす全国代表者会議が10月9日午後TKPスター会議室日本橋で支援者38名、争議団28



名の参加で開催されました。津恵事務局長より今までの経緯と今後の運動方針が提起され、13名の支援者から「12回の特別協議はばかになっている。不誠実団交と

## 議員会館前アピール行動

して労働委員会などに訴えるべきではないか？」  
 「運動はオリパラに集中して大規模の運動を構築すべき。」  
 「1、2か月の運動では結集できない。長期的計画で全国決起が必要」  
 「オリンピックがポイント。国際線のある空港で一斉宣伝や代理店要請をしたらどうか。模倣制服でのアピールが効果的。」  
 「労組演説をほつきり打ち出すべき。全国统一した運動を。」  
 「キャラバンや意見広告など活用してまだ争議が続いていることを知らしめる必要がある。」  
 「文書で行った回交申し入れには文書で答えさせる。不当労働行為の申し立ての構えをみせるべき。」  
 「伝家の宝刀を抜く(ストライキ)意気込みをみせることが解決につながる。」  
 「などのご意見が出されました。」  
 津恵事務局長から「全国的構えの運動提起。各地である温度差を埋める行動。見せる工夫。オリ

臨時国会が始まる10月4日から議員会館前でのアピール行動と議員要請を行いました。初日は12時〜13時で総がかり行動があり、横断幕とのぼりでサイレントアピールを行い、総がかり行動終了後に宣伝行動を行いました。7・8・10日も12時

ンピック・パラリンピックを中心に添えた運動。構えと工夫」が提起された意見のまとめとし、今後の支援共闘の運動に生かすことが述べられました。

当該組合からは引き続き社長出席の回交申し入れを行うこと、支援者と運動を大きく連携していくこと、社内世論を高める取り組みを行うことなどが報告され、各争議団団長からは解決するまで頑張り決意が述べられました。

13時に議員会館前で宣伝行動を行い、その後グループにわかれて議員要請を行いました。

宣伝行動を行っている支援いただいたいている議員や、知り合いの支援の方々が通りかかり、激励挨拶をしてくださったりとアピール度は抜群でした。

4日間で要請に伺った



議員は、参議院議員は19事務所、衆議院議員は111事務所でした。

要請に伺った時に議員が直接会って話を聞いてくださったり、後刻議員から直接問い合わせがあったりと思わぬ収穫もありました。今回の要請をきっかけに議員の皆さまに解雇争議解決に向けての御助力を再度お願いしていきます。

また、かながわ連絡会では独自に10月7日に神奈川出身衆参議員に要請を行い48事務所を訪問しました。

### <原田さん追悼文>

#### 「原田さん、話が違いますよ！」

国労闘争団全国連絡会議副議長、国労東京闘争団団長で、JAL闘争支える会の事務局次長の原田洋一さん、私が不当解雇撤回闘争で、巡り合った、沢山の尊敬できる、素敵なおひとりです。こ



れも、不思議な巡り合わせなのか、高校の同窓生と言うことも解り、活動する中、壁にあたったり、悩んだときに相談できる、心の支えでもありました。一緒に活動していく中で、「俺は100歳ぐらいまで、長生きしそうだから、あなたたちの解決を見届けて、葬式もだしてやる。」と仰っていました。

「原田さん、見届ける話は？話が違いますよ！」どうぞ安らかに！そして私たちの納得できる解決を見守ってください。

JAL不当解雇撤回争議団 平井洋子



# オリパラ委員会の催しで 自民党議員がJAL争議に言及

9月18日、国連大学で2020オリンピック・パラリンピック組織委員会とLO共催によるティーンズ・ワーク（人間らしい働き方）実現に向けたフォーラムが開催されました。参加者は約100名、JALの福家（ふけ）人財部長（解雇問題解決に関する協議では会社のトップ）はモデレーターの一として参加し、企業理念、JALのロソフィ、社員の物心両面の幸せ、人権尊重と多様性、女性活躍、LGBTなど、素晴らしい言葉を並べたてJALをアピールしました。

4人が発言したあと、東京オリンピック組織委員会の評議委員の馳（はせ）浩衆議院議員が以下の質問をしました。「日本航空の福家さんにお伺いしますけれども、いわゆる不当解雇問題等について現状はどうなっているのでしょうか。」

大変関心が深くですね、この問題があまり長すぎるのは良くないことかなあと思つて見ております。いかがかと、ちょっとお伺いします。」

これに答えて福家部長は「2010年に経営破綻し、更正計画の一環で、事業の大幅縮小に合わせ、機材の売却、旧株主の皆様には大変な迷惑をかけた。債権の放棄もした。」



9月18日 国連大学前で要請行動

事業の縮小に伴って当時5万人いた社員を3万人にという人員削減の中で、希望退職等もやったが、人数に至らず、165名の方の整理解雇ということに至った。その後、裁判が起こり裁判自体は終結しているが、支援する皆さんとの間で争議が続いている。労働組合ともこの問題については、協議をずっと続けてきている。色々ご要求も頂いている中で何か解決する手立てはないかと協議は続けているが、なかなか合意に至らない部分もあって今も続いている、このような状況です。昨年から整理解雇された方も含めてかつて会社に在籍された方も対象にして再雇用の募集ということが続いているがなかなか再雇用に結びつかない、年齢的な面もあったりして、なかなか思うようにならないところ、引き続き

会社としても何かできる事はないのかと言うところを協議をしながら考えていくというのが現状です。」

しかし、ゴシック部分は事実と違います。人員削減目標よりパイロット110名、客室乗務員78名も超過達成しており、希望者全員の職場復帰要求に答えず、具体的な解決策も示していません。一般公募に応募しても、乗務職として採用された

## JAL株主総会報告

6月18日、第70期JAL定時株主総会が品川グランドで開催されました。参加者は1149名で、質問者は14名（動議2名含む）でした。支援者株主からは2名が指名されましたが、争議団5名は誰も指名されませんでした。

しかし支援者ではない一般の株主2名からも争議解決に関する質問がなされた。

人は一人もいません。公募の年齢基準を超えたのは、JALが争議解決にふみ出さず、いたずらに時間が経過したからです。

昨年5月以来、12回の特別協議の不誠実さ、解雇問題解決に向けた社長出席の団交にも応じない対応は許されるものではありません。JAL争議は経営判断すれば、今すぐにも全面解決できるのです。（支援共闘ニュースより抜粋）

れ、2年ぶりに行われた国民共闘主催の会場前宣伝行動（約100名参加、約900部のチラシ配布）の影響もみられました。総会では冒頭、初めて議長を務めた赤坂社長が飲酒問題について詫言、取締役全員が起立し頭を下げました。

支援者株主の発言要旨…「安全問題について危惧している。ストレスがかかり

すぎる」といふアルコールに頼ってしまうことがある。お詫びの話が出されたが、乗務員の労働条件や労働環境がどうだったのか調査されたのかどうか伝わっていない。私自身も解雇されたが既に解決した。JALも業績が回復しているのに何故解決の方向に行っていないのか。昨年植木会長は解決すると話していたのにどうなっているのか赤坂社長に聞きたい。」「最高裁で確定した不当労働行為があり、その上で整理解雇された。この点を踏まえたらうえで争議解決を図ってもらいたい。この争議は経営者の判断でしか解決できない。解決しない限りは争議は続く。それが会社にとって良いことだとは思わない。オリンピックまでに解決する決断をもって対応してほしい。」

赤坂社長答弁要旨：「何とか解決したいと考えている。前々からずっと考えている。格安航空会社（ZIPA）や経験者採用に応募いただいたが、採用に至らず残念だ。他にも方法がないかずっと考え続けていきたいと心から思っている。その方法については、合理性があって、公明正大でなければならぬと考えている。」

飲酒問題についての質問が多くてでしたが、当該乗員の責任を問う内容はなく、職場環境などを問題視する発言がされました。会社は「再発防止策の実行と社員一人一人に寄り添う」などと答弁しましたが、ロンドンの事件で懲戒免職された乗員は事情聴取さえされていません。飲酒問題は解雇問題の未解決・要員不足・ものの言いにくい閉塞感の強い職場環境と決して無関係ではありません。

「ずっと考えて」も解決案はありません。統一要求に基づく解決の決断をすべきです。

# 年末までの解決に向けた取り組み

本社前連続アピール行動

9月24日から12月9日の本社大包围行動までの間、JALに争議団の決意を示すために本社前連日アピール行動を行っています。平日の12時〜13時を基本に本社2階のスカイウォークで横断幕を上げマイクで訴えや歌などでアピールをしています。回交や争議団支援行動などの関係で時間がずれるときも、できない時もあります。又、連日なので多人数ではできませんが交



代で2名そろえば行っています。支援の方も日中の忙しい中かけつけて下さり、激励の挨拶もいただいています。連日の行動は初めてですが、年内に解決を！の強い意志を示すために頑張っています。ご参加いただける方は、行動日を事務局に確認の上ご参加ください。（事務局 電話03357055716）

成田・羽田集中ピラ行動・11月10日の羽田アッピーに結集を！

連日成田の事務所前ではピラを配布し職員に宣伝を行っています。年内解決をめざして人数を倍増させる集中日を10月14・16・17日に設け、期間限定のゼッケンを付けて配布しました。

羽田では11月10日12時〜13時に第一ターミナル外側通路にて支援者の方々と共にアピール行動を行



5月30日 JAL本社前要請・大包围行動

います。それに先駆けて4日〜8日には17時〜18時に争議団と航空労働者による「J」まぎさを決定しています。10日のアピール行動には是非ご参加ください。

12・9 JAL本社大包围行動

12月9日18時半から天王洲アイルのJAL本社を包囲する大包围行動を行います。12月9日は解雇通知をつきつけられた争議団にとって最も悔しい日です。これまでを上回る結集でJALに解決の決意を迫ります！是非お誘いの上、多数ご参加くださいますようお願いいたします！